

植物はどんな土が好き？

社会福祉法人しらゆり会 しらゆり保育園（島根県松江市）

[5歳児]

[これまでの様子]

砂遊び、泥んこ遊び、泥団子、堆肥作り・・・など、砂や土と触れ合う様々な経験を存分にした子どもたちは、土にはいろいろな種類や質感があることを知り、さらにいろいろな虫や植物との出会いも経験した。腐葉土の中に、ミミズやワラジムシなどが沢山いたことから、子どもたちは「多分、虫さんは腐葉土が一番好きだよ」と感じ取ったようだ。そこで今度は、「植物はどんな土が好きなのか」を知るために、同じ植物を違う土で育ててみるようになった。

[事例1] トマトはどの土がよく育つか？

子どもたちの話し合いから出てきた思い

同じ思い・・・水やりは毎日しなければ！
違う思い・・・A. 砂が良く育つと思う。

B. わくわく広場の山のまさ土がいいと思う。

C. 段ボールコンポストで作った堆肥の土を混ぜたのがいいと思う。

D. 腐葉土がいいと思う。



保育者の教育的支え
違う思いをそれぞれに支える



①砂



②腐葉土



③まさ土



④堆肥入りの土

わかったこと

黄色いプチトマトを育てたが、トマトは砂でも比較的生長しやすい性質の植物であったため実際にはあまり差が出なかった。そのことから、トマトはどの土でも育つことがわかった。

[事例2] チンゲンサイとハツカダイコンを植えてみよう！

もっといろいろ調べてみよう！どんな植え方がいいのか？農園のおじさんに聞いてみよう！

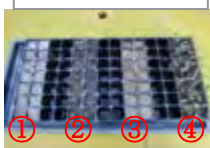


細かい種はね、こうして植えるんだよ。

チンゲンサイ

ハツカダイコン

堆肥の入っている土に芽がたくさん出ている！
やっぱり栄養のある土がいいんだね！



①砂 ②腐葉土 ③まさ土 ④堆肥入りの土

※真砂(まさ)土・・・花崗岩が風化した土壌。主に関西以西の山などに分布。

わかったこと

どちらの野菜も、子どもたちが段ボールコンポストで作った堆肥を混ぜた土がよく発芽し、双葉も元気よく伸びた。この経験から、「やっぱり栄養のある土を作ると良いんだ」と子どもたちは思ったようである。

[考察]

話し合いによって、子どもたちは同じ思いと違う思いがあることを知り、疑問に思ったことを実際に自分たちで考えた方法で試してみた。失敗した原因を話し合ったり、農園のおじさんに相談したりすることで、「次こそは」という強い気持ちや興味の継続など、以前と比べて成長が伺える。いかに実体験が大切かを実感した。

みどころ

身近な砂や土に十分親しんだ子どもたちだからこそ、土の違いに着目する活動へとつながっていきました。土を遊びとして触れるもの以上に、「虫たちにとって」「植物にとって」適した“土”として考えるまでに体験が深まっています。“大小”や“長短”など見た目だけを比べるだけでなく、“どれをどのように使うと、何がどう違うのか”といった質的な比較への関心が、体験の積み重ねによって引き出されています。